

multilingual translation >
音声読み上げ・多言語翻訳は
「カタログポケット」で



みず・まち・自然 エンジョイ！米子

広
報

よなご

5

2023
May
No.218

◎特集

皆生みらいの灯り



皆生

みらい

の灯り

皆生温泉エリアは、「コロナ禍を経て、「観光のためのまち」から「地元住民も豊かに過ごせるまち」をめざして動き出しています。今回は、この春に一部が完成した街灯のリニューアルをはじめ、地域が一体となって進めるさまざまな取り組みを紹介します。

灯りのおもてなし

この春、海岸沿いの遊歩道の街灯のリニューアルが、一部区間で完成しました。「海に開く」というコンセプトのもと、整備された街灯は遊歩道と砂浜を照らします。灯りはまち全体を優しく包み、皆生を訪れる皆さんを暖かくお迎えします。このたび整備されたのは、皆生海浜公園から東側の約600mです。西側の約400mは、今年度内に整備されます。

整備は、灯りを暖色で統一することや、照らし方のルールを決め

ることで全体の灯りの質を向上させるものです。令和3年度には四条通り（米子市観光センター）有本翁胸像）と中央通り（ホテル天水）東光園）の街灯を暖色LEDに取り替えました。また、民間事業者による事業共同体も、店舗や旅館の灯りを更新しています。

灯りを更新することで、飲食店などの夜の営業や新規事業にもつながります。夜も楽しく過ごせる場所をめざして、地域が一体となって取り組みを進めています。

▼海岸沿い遊歩道と四条通を結ぶ「Tライン」を整備し、エリア全体へ波及させる



水一広場（写真提供：かいけラボ）



ぐるぐるかいけ（写真提供：@miyaphoto1102）



憩い、集う場所へ

皆生温泉エリアの低未利用地（あまり使われていない土地）を活用し、人が滞在したくなる空間づくりや店舗出店の実証実験も実施されています。

「水一広場（スイッチひろば）」は、地権者、土地を活用したい人、そして住民と一緒に、低未利用地の課題を共有する取り組みです。毎月第一水曜日の夜に実施され、松林や公園に滞在できる空間を設営し、飲食店の出店などを楽しむことができます。

「ぐるぐるかいけ」は、皆生温泉地内を移動型の屋台やワークショップ、アクティビティ体験が各所で実施され、歩いて楽しい皆生温泉を満喫できる取り組みです。春と秋にそれぞれ3回実施されます。今年の3月の開催時には、2日間で約4000人が訪れ、皆生温泉を訪れる機会の創出や消費拡大につながりました。

皆さんが皆生に訪れることで、低未利用地を活用する事業者の誘致や、地権者の土地の利活用の喚起につながることを目的としています。



akippa (アキッパ)
15分～1日単位で駐車場を簡単に予約できます。



もっと行きやすく

駐車場シェアリングサービス「akippa (アキッパ)」と連携し、エリア内の旅館などが所有する空きのある駐車場をウェブで簡単に予約でき、有料で利用することができるようになりました。

駐車場の整備により地域の皆さんが訪れやすくなるだけでなく、皆生温泉エリアへ進出したい事業者が自前で駐車場を設ける負担を軽減する狙いもあります。

出店ゾクゾク！

今年3月には四条通りの角地に飲食店が3店舗、さらにエリア内にスイーツ店が3店舗開業しました。その他にも店舗の開業が相次いでおり、昨年度と今年度で合計9店舗がオープンしました。店も増え、ますます変わっていく皆生にも、ぜひ皆生を訪れてみてください。



more information

KAIKE-lab.(かいけラボ)
皆生温泉のまちづくりに関する最新情報を掲載しています。

